



一貫コース通信

情報を生かすという事…考

夏至を境に今年も半分が過ぎてしまったのだが、私達は、日常を僅かな変化の連続として捉えるので中々気が付けない。焦る気持ちとは裏腹に、様々な制限で失ったモノは大きく、まるでポツカリと穴が開いた様に感じるのを否定出来ない。今般、出来る限りコロナの情報収集に注力したが、思えば、約10年前にも同様の事があった。質は違うが共通点は科学領域に掛かる事だ。原子力もウイルスも本質は簡単ではないし、問題自体が人類史上初めての事態だ。従って、その時点では専門家は不在だったし、情報の信憑性すら定かでは無かったのである。以下は、こう言う経験の中で考えていた事である。

現在は(一応)Society4.0の情報化社会にカテゴライズされている。実際に活用されているか否かは別として、所謂(いわゆる)、情報に満ち溢れているに違いない。その中で強く思う事の一つは、情報を生きたものとして活用するには、使う側の力量が不可欠だと言う事である。今般の新型コロナウイルスのリスク対策然り、何時ぞやの放射線対応然りである。私は、大学で化学を学んだ。勿論(もちろん)、研究者レベルで学んだ訳ではないが、科学(物・生…数学)の基礎は心得ているつもりで居る。例えば、ウイルスの増殖の特徴や、放射線の仕組み、また、線量が人体に及ぼす分子レベルでの影響等についても…である。とは言え、防御できる訳ではないが、新聞の報道等を、ある程度の根拠と正確さを持って理解し、それ相応の判断は出来るのではないかと思う。また、必要な情報の多くは、専門領域の知見が必要な時代になったとも考える。

話題が飛躍しすぎる嫌いもあるが、自分でコロナウイルスと情報の共通点を考えて見た。元々、ウイルスの正体はDNAやRNAで、情報(4種の異なる塩基から成る)そのものと言って過言ではない。機能は生きた細胞に取り付き、自分の情報を伝達して、結果的に自分のコピーを複製させる。つまり、コロナは、ヒト細胞を介し、遺伝(複製)情報を人から人へ伝達させるのだが、これがウイルス感染の本質(実態)である。一方、巷(ちまた)の情報伝達も、私には同様に映る。情報の本質は単なる数字やデータ、はたまた、言葉・文字や音声・映像等が多い。その多くは、データの解析(解読)や意味の理解できる人を媒介とし、二次的に他(次)の人に伝達される。従って、情報の理解・解読の出来るヒトが生かすのであって、基礎知識やスキルがなければ、所詮はネット回線や電波に載った、ただの数字やデータに過ぎない。今や、この世界は情報の平易さ、汎用性に溢れているが、中には誤ったモノ、無責任に掲載されるモノも少なくない。また、専門性に振り過ぎた高度なモノや、恣意(しい)的で偏りの大きいモノも在る筈だ。

元来、ヒトは自分の都合に合うものを取捨選択する傾向が強い。情報も然りで、信憑性や善し悪しよりも、自分の好みで選ぶ場合が多いだろう。しかも、判断基準ともなれば客観性に優れたモノより、感覚的で情緒的な方が受け入れ易いし、周囲との同意も得やすい筈だ。思うに、こう言ったヒトの性向(サガ)が、真の情報伝達を妨げる事を忘れてはならない。

